【様式1】
令和５年度　授業改善推進プラン

東久留米市立小山小学校　第６学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 （数値等で具体的に示す）	具体的な授業改善策及び目標値 （数値等で具体的に示す）
国語	・令和４年度の「東久留米市学力定着度調査」やワークテスト等の結果から、聞かれた問いに関して、正対した内容や回答表現に課題が見られる児童が２割である。 ・令和４年度の「東久留米市学力定着度調査」や漢字小テストや学期末テスト等の結果から既習の漢字を活用することに課題が見られる児童が４割である。	・９割程度の児童が、問いに対して正対することができるよう、授業の中でのやりとりやノートの指導によって定着を図る。 ・家庭学習で漢字を毎日進めるとともに、小テストを定期的に行っていく。また、日常の書く活動の中で、既習の漢字を使うことができるように言葉掛けや個別指導を進めていく。
算数	・分数と小数の混じった計算において、小数を分数に直して計算することや、約分を正しく行い計算することなど、計算過程を正しく進めることに課題が見られる児童が３割である。 ・分数÷分数の計算において、わる数を逆数にして計算する意味を理解して計算できる児童は単元テストの結果２割である。 ・文章題の題意を理解した上で立式することが立式することに課題が見られる児童は単元テストの結果３割である。	・くり返し計算の練習問題に取り組んだり、数字を変えて応用問題に取り組んだりするなどして、様々な計算過程に慣れるようにする。（単元テストの結果９割ができるようにする。） ・計算過程を図などを用いて見える化させる活動をすることにより、式や計算の意味の理解を深められるようにする。また、このような活動を継続的に取り組む。（単元テストの結果９割） ・文章題を数直線や文字式、４マス表などを活用することで立式することができることを指導していく。（単元テストの結果９割）
理科	・理科で扱う用語の意味を理解して正しく用いることに課題が見られる児童がワークテストの記述問題の解答から２割である。 ・実験方法を考える際に、条件制御や再現性などを考慮した上で実験方法を考えることに課題が見られる。	・用語の意味を言葉でおさえるだけでなく、目の前の事象と関連付けて用語の意味を理解できるように指導する。 ・学級全体や班で実験方法を考える際に、教員が条件制御や再現性を意識した言葉掛けを行う。
特別の教科道徳	・自分事として捉えやすい題材に対しては主体的に学びに向かうことができるが、扱う内容項目によっては、自分事としてとらえることに課題がみられる。	・導入で課題に対する予想を聞き、児童の予想に反するような補助発問をすることで興味関心を持たせる。また、題材の内容と自分たちの生活をつなげられるようなヒントを出し、実際の生活場面で考えることができるようにする。